

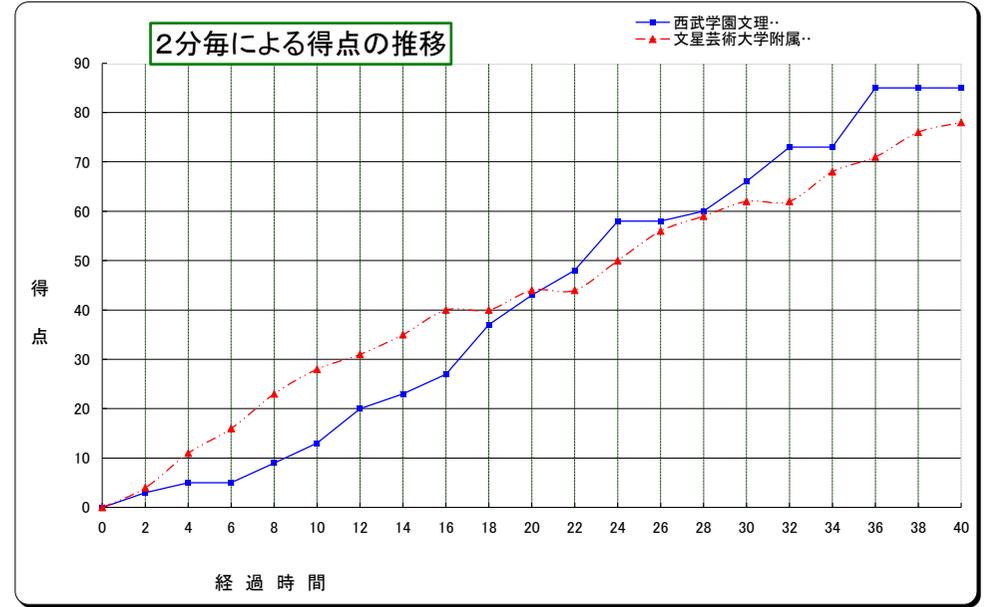
平成28年度第70回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成28年6月4日(土)
深谷ビッグタートル
Aブロック2回戦

チームA			チームB
西武学園文理 (埼玉)	85	{	文星芸術大学附属 (栃木)
		}	78
		1st 28 2nd 16 3rd 18 4th 16	

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	上原 敬太	0	0	3	0	2	0	0	0	1	1	4	7	0	2
5	大野 力	17	0	0	8	13	1	1	2	5	7	0	3	0	3
6	渡邊 陸	27	5	12	5	9	2	3	4	3	6	3	5	1	3
7	山口 裕毅	18	5	12	1	4	1	2	1	0	2	2	1	1	1
8	星野 太我	9	1	3	3	8	0	0	2	0	7	2	2	3	2
9	坪田 悦正	0													
10	砂見 悠吏	10	0	0	5	6	0	0	0	0	2	0	1	0	2
11	荒井 響斗	4	0	1	2	3	0	0	0	0	1	0	0	1	2
12	田島 悠斗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	後藤 文哉	0													
14	成瀬 和哉	0													
15	園田 開	0													
16	中尾 圭希	0													
17	田中 壱平	0													
18	谷原 悠仁	0													
コーチ	大久保 英人									0	5				1
		85	11	31	24	45	4	6	9	9	31	11	19	6	16
		確率	35.5%		53.3%		66.7%			計 40					

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	山口 夏生	23	7	13	1	4	0	0	2	0	0	0	2	0	6
5	吉川 天斗	9	0	1	4	8	1	1	0	2	2	3	2	0	3
6	野澤 亮太	0													
7	大登 健太	2	0	1	1	9	0	0	0	2	4	2	0	0	0
8	伊藤 聡志	12	0	0	6	13	0	0	1	5	10	1	2	0	6
9	石川 修大	0													
10	千葉 隆生	6	0	0	3	3	0	1	0	2	4	1	0	0	0
11	渡邊 駿	0													
12	菅沼 明志	2	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
13	小倉 峻平	20	4	20	4	9	0	0	1	2	5	1	3	1	3
14	栗島 夢人	0													
15	池田 和樹	2	0	0	1	1	0	0	1	4	1	0	0	0	0
16	飯島 永遠	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
17	針ヶ谷 豊	0													
18	川上 達也	0													
コーチ	伊藤 均									4	5				1
		78	11	36	22	49	1	2	6	21	32	8	9	1	19
		確率	30.6%		44.9%		50.0%			計 53					



戦評

第1P、両チームマンツーマンディフェンスでスタートする。文星芸術は#4、#5のドライブから西武文理のディフェンスを崩し、#7や#8へのゴール下へのアシスト、また#13の3Pで得点を重ねリズムの良いオフェンスが展開された。一方西武文理は、#5、#6がドライブで攻撃を仕掛けるが完全に崩しきれず、#5、#7の3Pで得点はするがペースを掴みきれずに、28対13で文星芸術が15点リードで終了する。

第2P、西武文理は積極的なディフェンスで、#4や#5へのプレッシャーを強め、文星芸術のシュートが外れたところを、速攻と#10や#11の得点で8点差とする。文星芸術は5分でタイムアウトを取る。タイムアウト後、文星芸術の#8のミドルシュートや#4の3Pが決まり試合の主導権を取り戻しかけたが、西武文理も#6の3Pや#5のドライブインシュートで得点を重ね、前半残り1分で逆転に成功した。しかし、文星芸術も#5のドライブインで再逆転し前半は43対44で文星芸術が1点リードで終了する。

第3P、第2Pでペースをつかんだ西武文理は、#5のミドルシュート、#7の連続3Pで逆転した。文星芸術は交代で入った#10がドライブインシュート、#15がリバウンドシュートで得点し、残り3分で2点差とする。再逆転を狙う文星芸術は#13をコートに戻すが思うようにシュートが決まらず、西武文理は#7が第3P終了間際に3Pを決め66対62で文星芸術の逆転を許さなかった。

第4P、立ち上がり2分で西武文理は#4のドライブイン、#7の3Pや速攻で11点差とした。文星芸術はタイムアウトを取る。タイムアウト後、文星芸術は#4の連続3P、#5のドライブインシュートで食いつかる。西武文理も#6の3Pで得点し、残り5分で5点差となる。文星芸術はタイムアウトを取り、ディフェンスを2-3ゾーンに変えたが、西武文理の#6が3連続3Pを決めて突き放しにかかる。文星芸術もゾーンプレスでボール奪いにくい85対78で西武文理が勝利した。

記録者: 若林隆司